

NEW

ジャズ専攻

OSAKA COLLEGE



高い演奏技術と深い音楽的知識、そして優れた感受性と豊かな表現力。現代のジャズを演奏するには様々なことが要求されます。しっかりとした基礎を土台に据え、広い視野を持ち自分自身を磨いていくことが必要です。一人ひとりの個性に対応したきめ細かいレッスンに加えて、実践的なカリキュラムに従い音楽的な経験を積むことで、一つひとつのハードルをクリアすることにより、演奏家や指導者として、また広く社会で活躍できる人材の養成を目指します。

学びのポイント

Point 1

日本を代表するジャズミュージシャンに直接教わり、高いレベルのジャズ演奏家を目指します。

Point 2

充実した多彩な演奏の場があり、学びの成果を発表できる機会が豊富です。

Point 3

パーソナルマインドとも言われるジャズにおいての自己表現(アドリブ)まで、徹底的に身に付けます。

Pick up

日本を代表するプロによる徹底指導

日本を代表するジャズミュージシャンとして現役で活躍する著名な教員が指導します。プロの演奏を聴き、直接指導を受けることで、技術だけでなくプロ意識も高めながら、高いレベルのジャズ演奏家を目指します。



土岐 英史
(サクソフォーン)

充実した演奏の場

K号館サロンや学生サロン「ぼうぜ」でのライブから、カレッジ・オペラ・ハウスやミレニアムホールでの演奏会まで、幅広い舞台で演奏の機会があります。また、ライブハウスにて一般のお客様の前に、日頃の成果を発表できる学外ライブもあります。



宗清 洋
(トロンボーン)

自己の熟成を目指す 応用練習

譜面どおりに演奏できるだけでなく、ジャズ演奏に必要な「自己表現」までしっかりできるように指導します。アドリブや応用練習を通して個人のセンスを磨き、自分をどれだけ熟成できるかに重点を置いて、学んでいきます。



石井 彰
(ピアノ)

Faculty's voice

正解のないジャズの世界。 だから、感性を磨いてほしい。

ジャズがクラシックと大きく異なる点は、非常に個人的な音楽であるということ。楽譜を正確に読み取るだけでなく、アドリブで自己を表現することが必須となります。ただ正確に譜面通りに楽曲を演奏していても、それはジャズの世界では決して「いい演奏」とは呼ばれません。そういう意味で、ジャズは個性のかたまりと言えるでしょう。本学のジャズ専攻では基礎はもちろん、「4年間で自分をいかに熟成させられるか」を目標として指導します。演奏技術の向上だけを追い求めるのではなく、成熟したプレイヤーになるよう、感性

を磨きながらジャズの奏法を身につけることで、プレイヤーとしての表現の幅は格段に広がります。ジャズを目指す人に求めるのは、好きなスタイルの曲やプレイヤーの演奏をよく聴いておくこと。そして、目指す楽器の基本を知っておくこと。個人のセンスが問われ、正解のないジャズの世界で活躍するためにも、どんな楽曲でも自分の個性を発揮できる、ブレのない「軸」を築いておくことが大切です。



音楽学科/ジャズ専攻
赤松 二郎 教授